

【広島市消費者物価指数】

1 平成 26 年 8 月の動向

- 広島市総合指数（103.2）は前月比で 2 か月ぶりの上昇。前年同月比は 14 か月連続の上昇。
- 生鮮食品を除く総合指数（102.8）は前月比で 6 か月連続の上昇。前年同月比は 14 か月連続の上昇。
- 食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数（100.4）は前月比で同水準。前年同月比は 11 か月連続の上昇。

2 総合指数、生鮮食品を除く総合指数、食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数

	指 数	前月比 (%)	前年同月比 (%)
総 合 指 数	103.2	0.3	3.2
生鮮食品を除く総合指数	102.8	0.1	2.6
食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数	100.4	0.0	1.9

3 前月からの動き

～食料は上昇，被服及び履物は下落。～

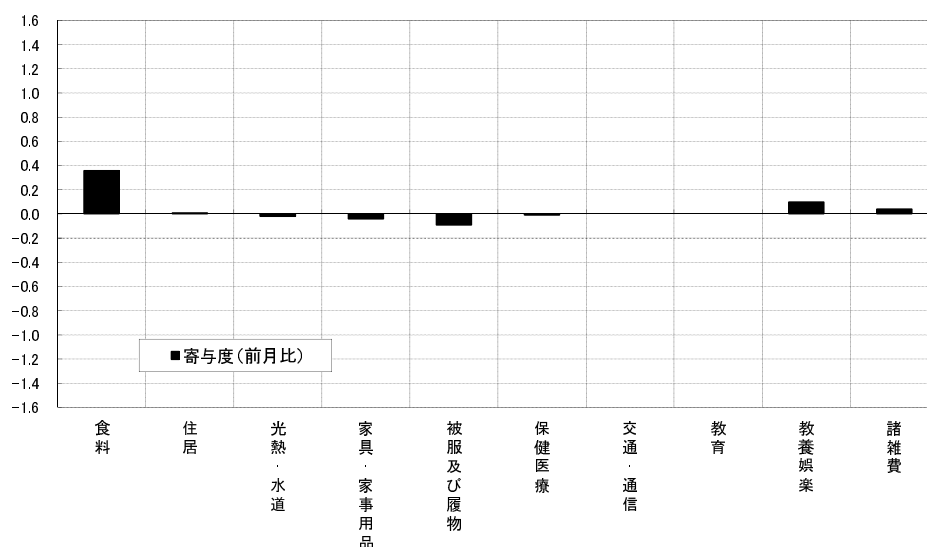
(1) 10 大費目の動き

	総合	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
指 数	103.2	105.5	99.1	114.6	93.2	101.0	100.1	105.6	97.6	98.9	109.0
前月比 (%)	0.3	1.4	0.0	▲ 0.3	▲ 1.2	▲ 2.0	▲ 0.3	0.0	0.0	0.9	0.6
寄与度	0.3	0.36	0.01	▲ 0.02	▲ 0.04	▲ 0.09	▲ 0.01	0.00	0.00	0.10	0.04

(参考) 主な要因となっている 10 大費目について、寄与の大きかった中分類項目

食 料：魚 介 類 (前月比 7.6%，寄与度 0.19) 等
 被服及び履物：シャツ・セーター類 (前月比 ▲6.2%，寄与度 ▲0.06) 等

図 1 10 大費目別前月比寄与度



(注) 寄与度：物価全体（総合）の上昇（下落）に、各費目がどれだけ影響したかを示したもの。本来、寄与度の合計は、総合指数の前（年同）月に対する変化率となるが、四捨五入の関係で一致しない場合がある。

(2) 総合指数に対する寄与の大きかった中分類項目 (寄与度順)

上 昇		下 落	
項 目 (主な品目名)	前月比	項 目 (主な品目名)	前月比
魚介類 (えび 等)	7.6%	教養娯楽用耐久財 (テレビ 等)	▲4.3%
教養娯楽サービス (宿泊料 等)	2.8%	シャツ・セーター類 (スポーツシャツ[半袖] 等)	▲6.2%
野菜・海藻 (きゅうり 等)	3.1%	家庭用耐久財 (自動炊飯器 等)	▲2.2%
調理食品 (うなぎかば焼き 等)	1.9%	自動車等関係費 (自動車ガソリン 等)	▲0.3%
交通 (航空運賃 等)	1.6%	洋服 (背広服[夏物, 中級品] 等)	▲1.1%

4 前年同月からの動き

～食料, 教養娯楽及び光熱・水道は上昇, 教育は下落。～

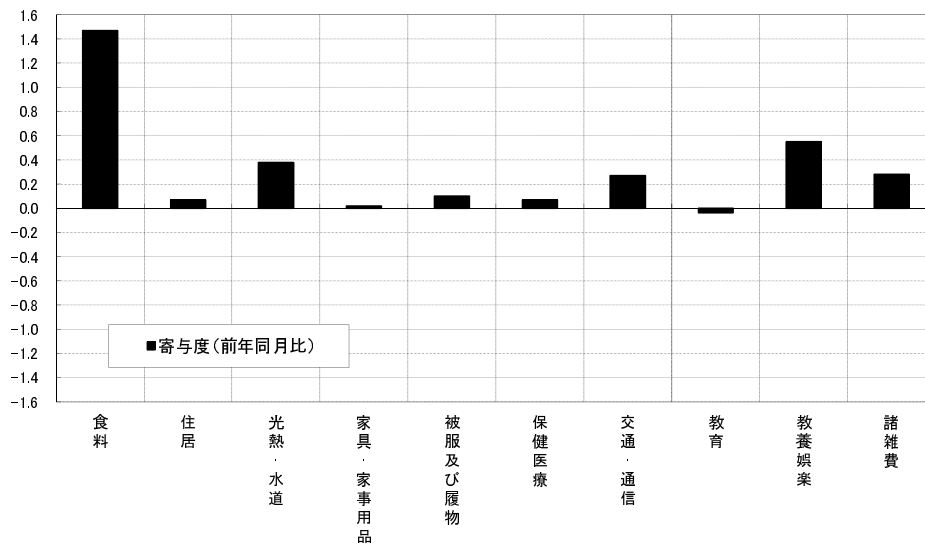
(1) 10大費目の動き

	総合	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
前年同月比 (%)	3.2	5.8	0.4	4.6	0.4	2.2	1.4	1.9	▲1.2	5.1	4.3
寄与度	3.2	1.47	0.07	0.38	0.02	0.10	0.07	0.27	▲0.04	0.55	0.28

(参考) 主な要因となっている10大費目について, 寄与の大きかった中分類項目

- 食 料: 魚 介 類 (前年同月比 17.3%, 寄与度 0.40) 等
- 教 養 娯 楽: 教養娯楽サービス (前年同月比 3.7%, 寄与度 0.23) 等
- 光 熱 ・ 水 道: 電 気 代 (前年同月比 5.0%, 寄与度 0.20) 等
- 教 育: 補 習 教 育 (前年同月比 ▲12.4%, 寄与度 ▲0.07) 等

図2 10大費目別前年同月比寄与度



(2) 総合指数に対する寄与の大きかった中分類項目 (寄与度順)

上 昇		下 落	
費 目 (主な品目名)	前年同月比	費 目 (主な品目名)	前年同月比
魚介類 (えび 等)	17.3%	家賃 (持家の帰属家賃 等)	▲0.5%
野菜・海藻 (きゅうり 等)	9.7%	補習教育 (補習教育[小学校] 等)	▲12.4%
教養娯楽サービス (宿泊料 等)	3.7%	家庭用耐久財 (食堂セット 等)	▲3.0%
外食 (焼肉 等)	4.1%		
電気代 (電気代 等)	5.0%		